



街路樹



体育科の授業改善の視点と実践例紹介



「ようこそ 相談室へ」～教育相談部より～

一人一台端末(以下、「GIGA端末」とする。)の活用が本格的に始まっております。各学校においては、教科の特性を生かしながら、学習を進めていることと思います。

今回は、GIGA端末と、同時再生機能のあるアプリ「見比べレックス(大修館書店)」(以下、「アプリ」。)を活用した小学校6年生の体育科「器械運動」(跳び箱運動「台上前転の発展技」)の実践例を紹介します。

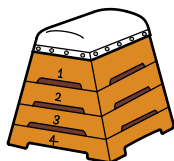
まず、オリエンテーションでは、昨年度どのような技に取り組んできたのか、動画を見ながら自分が取り組んできた技を振り返るとともに、単元全体の流れや、学習の進め方等について確認をしました。この時、技のポイント(技を見る視点も含む)を丁寧に確認することで、事後の活動にとっても役に立ちます。

実際の学習場面では、児童はアプリを使って見本となる技の動画や撮影した自分の動画を並べて比較し、技に関するアドバイスを相手に伝えるように考えながら伝え合う活動ができました。「手を着く位置がもっと手前」「腰の位置が前回より高くなった」「空中での足がきれいにそろっている」など、アプリを使用すると、自分の技や見本となる技を映像で再生したり、一時停止したりすることができるため、より具体的なアドバイスを十分に行うことができました。また、児童からのアドバイスをもとに、課題を克服するための場を設定していたため、児童自らが場を選択し、学習を進めることもできました。

単元のまとめでは、自分が取り組んだ技を動画で見せながら、うまくいった点や今後の課題点についての発表会を行いました。

今回の学習では、GIGA端末とアプリを使用して学習を進めました。ICTの効果的な活用は、様々な対話(対教師、児童、自分)を生み、技の習得につながります。今回は有料のアプリを使用しましたが、GIGA端末2台を併用すると、アプリを使用したときと同様の授業が進められると思います。

「3つの資質・能力を育成していくために、積極的にICTを使うことが大切である」と学習指導要領には示されております。今後、先生方の創意工夫のある授業実践を楽しみにしております。



「おつ、熊さん、朝早くから何事だい」
 「はい、ご隠居さん、福島県民割で1泊の旅をしてきたもんで、お土産を少しですが、お持ちしたところなんですよ」
 「そりゃ、ありがとよ。あれ、熊さんの後ろにいるのは、せがれのケン坊じゃないか。ケン坊、おはよう。でも、もう学校は始まっている頃だが、ケン坊はどうしたんだい？」
 「へい、今日は、先生に勧められて総合教育センターの教育相談室って一ところに相談に行くんですよ」
 「へー、なんでまた？」
 「ケンは、学校でも落ち着きがなく、授業中にしょっちゅう席を離れたり、友だちの勉強の邪魔になったりするって一んですよ。まったく困ったもんですよ」
 「そんなわけで、友だちとのトラブルも多く、担任の先生も困ってしまっていて、どうしたらいいかと先生と相談したんですがね、なかなかうまくいかねーので、どうしたもんかと思ひまして」
 「そりゃあ、心配だなあ。一番困ってるのはケン坊だろうから、相談に乗ってもらえるのはいいことだな。で、その教育相談室って一のは、どこにあるんだい？」
 「市の文化センターだそうですよ。今からおっ母といくんですがねえ、緊張するもんですねえ」
 「めんこいケン坊のためだ、いい話になるといいがなあ」

～ 子どもの学習や生活のことで困ったことがあったら
 「子ども健康教育相談」(☎22-3709)へ～



「教育研究発表会」より

令和4年1月7日(金)、2年ぶりとなる教育研究発表会を実施しました。昨年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため開催できませんでしたが、今年度は市内外より169名の教育関係者にご参加いただきました。

第1部分科会では、調査研究委員会の2年間における実践発表が行われました。教科部会では、単元構想シートを活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善について発表しました。道徳部会では、「考え、議論する道徳」の在り方について、特別支援・生徒指導部会ではケース会議による生徒指導、児童生徒支援の在り方について発表しました。実践発表に関する授業動画は、令和2年度のはFCSの学校代表アドレスから共有ドライブに、令和3年度のはGoogle Classroomに入ると視聴することができます。また、学習指導案などの資料は、Kドライブから利用することができます。



分科会発表の様子



北鎌倉女子学園 学園長
 柳沢幸雄先生によるご講演

第2部全体会では、北鎌倉女子学園長の柳沢幸雄先生に、「これからの学校教育・教師に求められること」と題して、国際化が進むこれからの社会を子どもたちが生きていくために大切な「自己肯定感」や「自信」をどのように育てていくのかなどをご講演いただきました。柳沢先生には「垂直比較でほめる」「脳動学習の実践」など大変多くの示唆をいただきました。「自分はチャレンジすればできるはず！」そう自分を信じて学ぶ子どもたちを学校教育の中で育てていきたいものです。